

SPECIAL CROSS TALK

まちは、自分たちで変えられる。

リノベーション まちづくり3.0

新しい使い方を考える人、挑戦する人、それを応援する人。
そんな人たちの動きが重なったとき、まちは少しずつ面白くなっていく。
リノベーションまちづくりに携わる5人と一緒に、これからのまちを考えます。
問共創イノベーション課(☎231-5838)

No.02
たきびれっじ
妻崎 和雅さん

活動エリア 豊北町

たきびれっじの他にも、阿川郵便局局長、豊北地区まちづくり協議会会長、カフェ「Agawa」副店長(自称)、豊北町裏の観光大使など公私問わず、豊北町全域で活動中。

No.03
ムクロジ木器
辻 翔平さん

活動エリア 豊浦町

家具の営業マンから、夢だった木工職人として独立。福岡から下関にIターンし、2015年に豊北町阿川に工房を設立。2018年に豊浦町宇賀本郷に工房を移転し、地域の交流の場になっている。

No.04
うみまちスタイル
田中 彩季さん

活動エリア 豊北町特牛

両親とともにうみまちスタイルを立ち上げ、地元の特牛を中心に、空き家調査・管理、民泊経営、アパレル・グッズの販売、コンビニ経営など幅広く手掛ける。座談会の会場「いるか文庫」も活動の一つ。

リノベーション まちづくりとは?

リノベーションまちづくりとは建物を改修することだけではありません。「今ある資源」を活用することで地域の課題を解決し新たな価値を創出するまちづくりの手法です。









共創イノベーション課 毛利 昌史さん



「始まりは、身近な「何とかしたい」」

毛利　皆さんが活動を始めたきっかけは、まちへの危機感だったんですか？

辻　僕は、まちへの危機感より自分の商売への危機感からでした。福岡から妻の実家のある下関へ移住して、知り合いもいませんでしたから。そんな時に出会ったのが、阿川郵便局局長の妻崎さん。郵便局に行ったら「引っ越して来られた方ですよね」と声を掛けてくれたんです。

妻崎　当時は移住者が珍しかったんですよ。話し掛けてみたら、阿川に工房があると分かって。

田中　そうやって声を掛けてもらえるのは、すごくありがたいですよね。

辻　本当に。移住した頃は、知り合いが車ですれ違う人に次々と手を振るのが、うらやましくて。転勤族だった僕には地元と呼べる場所がなかったんですが、今では僕も、手を振ってもらえることが増えました。助けてもらった分、次に来る人の不安を減らせたらと思ったんです。

妻崎　私たちも、最初から大きなことを考えていたわけじゃないですよ。地元の友人たちと飲んでは、「何かせないけんよ」と言いながら、7年くらいそれで満足していたんです。でもやっぱり、「覚悟決めてやらんといけん」ってことで、友人5人で3年前にたきびれっじを立ち上げました。

毛利　空き家を活用したゲストハウスづくりから始めたんですよね。

妻崎　でも、まだ完成していないんです。滝部のサグラダ・ファミリアです。（笑）

毛利　完成の予定は？

妻崎　もうそろそろのはずなんですが・・・・・。

一同　（笑）

田中　私たちは、隣の空き家が崩れて、祖父母の家に寄り掛かってきたことがきっかけでした。

橋本　隣の家が倒れ掛かってくる、という話は、私が関わっている茶山でもあります。空き家って、持ち主だけの問題ではないんですよね。

田中　そうなんです。「命に関わるよね」と、父が所有者を調べ始めたのが最初でした。私自身も地元を離れていた頃、帰省するたびにお店がなくなり、人が減っていくことに危機感を覚えていました。便利ではないけれど、特牛の風景や人の温かさがずっと好きで。自分の力を生かすなら、やっぱりここだなって思ったんです。

橋本　私も不動産の仕事で、何人案内しても借り手が決まらず、傷んでいく家を見てきました。家賃収入がないから手入れもできない。そんな負のスパイラルを変えたいって思ったんです。

毛利　皆さん、まちづくりをしようと思っていたわけじゃないんですね。

橋本　そうなんです。最初は「まちづくりって何なん？」と思っていたくらいです。（笑）

「きれいごとだけじゃ続かない」

辻　ちょっと聞いてもいいですか。まちづくりって本業に響く！ですよね？

田中　ものすごく分かります。（笑）

辻　僕は、まちづくりにもビジネス的な視点が必要だと思っています。聞いていいのか分からないけど、いるか文庫って、もうかるんですか？

田中　基本的にはもうかりません。

辻　えっ、どうやって運営しているんですか？

No.01
ARCH
橋本 千嘉子さん
活動エリア 茶山 下関駅前エリア

家業の不動産会社から独立して起業。茶山で取得・借り上げした物件を改修し、民泊や貸しスペースに。まち歩きやワークショップで、誰もがまちに関われる機会を創出している。



田中　本業の田中商店や、うみまちスタイルでやっている民泊、グッズ販売などがあるから運営できています。だからこそ、いるか文庫はまず地元の方に使ってもらって、皆さんの声を聞きながら、暮らしにあった空間作りをしたいんです。例えば床は、最初は汚れても拭けるフローリングを考えていたんですけど、親御さんたちから「赤ちゃんが寝転んでも痛くない畳の方がいい」と意見をもらって。

辻　なるほど、畳にしたのも地域の人の声だったんですね。

田中　授乳室を作ったのも、お母さんたちの意見です。「おしゃれで、何でも整った場所じゃなくてもいい」と率直な意見をもらえたのも、ありがたかったですね。

橋本　使う人の声を聞いてみないと、分からないこともありますよね。茶山では、まず場所を借りるところが難しいんです。空き店舗に見えても、持ち主が分からない、貸すつもりがないなど、すぐ使えるとは限らないんです。

妻崎　持ち主を探す時は、地元のつながりが頼りになりますね。私たちは近くの自治会長さんに聞いたりして。

毛利　空き家を使わせてほしい、とお願いした時の反応はどうだったんですか。

妻崎　「あなたたちがやるなら」と、快く貸してくださいました。顔を知ってもらっていること、活動の積み重ねは大きいですね。

橋本　地域の方の気持ちも大事にしたい。でも、ゆっくりしている間に建物は傷んでしまう。私、ちょっとスピード違反だけどね。(笑)

毛利　スピードは必要だけど、地域の人を置き去りにもできない。バランスが難しいですね。

田中　私たちは、自分たちのできる範囲で、というのが基本なんです。例えば、まちを歩いて外観や聞き取りから空き家かどうか調査をするとき、空いた時間に少しずつ、今日はここまで、と決めて回るんです。仕事の合間や休みの日に1～2時間を使うだけでも、できることはあるので。

橋本　地道な活動ですよね……。心が洗われる。

辻　天使や天使。

田中　空き家調査して、所有者を調べて交渉するところまで一気にやる必要はないんです。

辻　時間、つくれるかなって思ってたけど、そのくらいならできるね。ちょっと反省して、正座します。(笑)

「つながり」が力になる

毛利　まちづくりという言葉を使わずに、ご自身の活動を説明するとしたら、何かありますか。

橋本　私、ありますよ。「関係性のインフラ整備」をしています。

辻　めっちゃかっこいいこと言ってる。

毛利　もう少しかみ砕いてもらえますか？

橋本　生活や商売の中で、頼れる人や、つながる先を増やすことですね。

辻　僕も指導している人に、木工だけじゃなく、コーヒーを入れたり、コーヒーの道具を作ったり、講師をしたり、いくつかできることを持っておくと良いよ、といつも話しています。どれかが上手くいっていなくても、どれかが上がっていれば、生活は成り立つので。

橋本　それが、商売をしていくためのインフラ整備なんですよ。

辻　かっこよく言うと、そうなるんやね。(笑)

田中　人とのつながりでいうと、子どもの存在がまちづくりのキーになると感じています。地域のお年寄りも、「子どもたちが何かするなら、見に行ってみようかな」と、関わるきっかけになりやすいんですよね。



橋本　茶山でも、子どもたちとまちを歩くと、地域の人と仲良くなれるんです。子どもたちの力で地域の方の気持ちも柔らかくなって、私たちの活動も少しずつ知ってもらえる。

妻崎　滝部でも、高校生が「廃校を使った婚活イベントがしたい」ってことで、旧阿川小学校で開いたんです。おとなしかった子たちが、本番が近づくと生き生きして、成功したら次はこんなことがしたいと話してくれて。卒業後も、イベントを手伝いに福岡から帰ってきてくれたんですよ。

田中　そういう関係が続くのはいいですね。いるか文庫も、地域のみんなで子どもを育てる、そのきっかけになればと思っています。

橋本　私は駅前で暮らしてきて、豊北や豊浦方面にはあまり行く機会がなかったんです。近くにある

のに、なんとなく線が引かれているように感じてしまって。

妻崎　豊北町のカフェでも「どちらから？」と聞いたら、「市内から」と言われて。「ここも下関！」ってこともありましたよ。(笑)

橋本　でも、違うのが悪いわけではないんですよね。地域への誇りや愛着の証でもある。その違いを楽しみに行ける関係がいいと思うんです。

辻　僕は豊北町から豊浦町に工房を移して、どちらにも知り合いができて楽しいんですよ。みんな、市内のいろんな場所に住んでみると面白いかもしれませんよ(笑)

妻崎　それぞれに面白いことをする人はいるので、つながったら楽しそうですね！



下関は変えられると思いますか？

妻崎　「何かしたいけど・・・」と相談に来た女性たちが、イベントで自信をつけて、今は豊北町の「まちづくりガールズ」として、自分たちで企画するようになっている。特別な人だからできるわけじゃなくて、きっかけがあれば動ける人は、たくさんいると思います。

田中　いきなり大きなことをしようとするのは難しくても、私たちを見て「そのくらいなら自分たちにもできるかも」と思ってもらえたらいいですね。

辻　僕も変えられると思う。空き店舗を改装するのは難しくても、軒先に小さな屋台を出すことならできる。行く目的ができたら、人も来るでしょう。

橋本　茶山でも、それをやりたいんです。店舗を借りるのが難しくても、軒先だけ貸してもらって、屋台で明かりをともしたくて、今準備中なんです。

毛利　屋台づくりの講師を、辻さんにお願いするのはどうですか。

橋本　いいですね！

辻　ちょっと、パクらないでください。(笑)

毛利　辻さん、「横展開」ですよ！

辻　でも、いろんな場所で使えたら面白いですよね。何かを売るだけじゃなくて、子どもが「私とオセロをする屋台」を出してもいいんですよ。

橋本　ワークショップでも、廃材でベンチを作った時、まちに置きたい、と提案してくれた子がいたんです。その子が、実際にベンチを置いた後、「自分でもまちを変えられるんじゃないかと思った」と言ってくれて。私も以前は、まちは誰かが変えてくれるものだと思っていたので、すごくうれしかったですね。「自分にもできる」と思う人が増えたら、もっと面白くなると思います。

毛利　そうですね。皆さんの話を聞くと、もう変わり始めていると感じます。行政もこれからは、まちの皆さんに活躍してもらう環境をつくっていくことが大切だと思います。今日は、ありがとうございました。



まちごとリノベーターズサミットin下関・豊北では、「まちづくりガールズを探そう」のスタンプラリーや顔写真がプリントされたティッシュが配布された。

共創イノベーション課と４つの総合支所の職員が集結した推進チームが、リノベーションまちづくりの取り組みを皆さんと一緒に広めていきます。「こんなまちにしたい」という思い、ぜひ一緒に形にしましょう！

リノベーションまちづくりの原則

1 あるものを活かす
土地建物だけにあらず！歴史、文化、食べ物、自然、働き方、学び何でも活かす。

2 小さな点を打ち波及を生む
スモールスタートで小さな成功を広げていけばいい。

3 民間主導の公民共創
補助金に頼らず自分たちで価値を生み出し続ける。





① しものせき茶山塾





壁を塗ったり、ベンチをつくったり。竹崎・茶山エリアの空き家を舞台に、自分たちの手でまちの可能性を探る「しものせき茶山塾」。大工などのプロに教わりながら、改修に挑戦します。まちを歩いて地域を知り、一緒に作業する仲間と出会うのも楽しみの一つ。建物を直す技術だけでなく、地域との関わり方も学ぶ場所です。空き家に新たな役割を生む一歩が、ここから始まっています。

② リノベーションまちづくり講演会 in 豊浦





定員50人を上回る約70人が集まった、豊浦でのリノベーションまちづくり講演会。10月7日、川棚の杜で、建築家の嶋田洋平さんの講演や、特牛・滝部の事例紹介、地域で活動する人たちの座談会を通じて、まちの未来を考えました。この開催をきっかけに、豊田町でも講演会の開催が決定（7ページ）。身近なまちの可能性を探る動きが、地域を越えて広がっています。

③ SHIMONOSEKI　TAILORS





かつて洋服を仕立てていた店が、今度はまちを「仕立てる」場所に。豊前田町の「SHIMONOSEKI TAILORS」は、高校生やクリエイターが、好きなことや得意なことを持ち寄る拠点です。写真やデザイン、音楽、食など、表現の形はさまざま。地域の物語や魅力を自分たちの視点で伝えます。つくる人と地域が出会い、新しい挑戦が生まれる場所を目指しています。

④ 特牛うみまちフェス2026





昨年に続き、豊北町の特牛港周辺で開かれた「特牛うみまちフェス2026」。地元の美容師がメイク体験やヘアカット体験を企画し、小さな図書館「いるか文庫」では読み聞かせセミナーが開かれました。会場のあちこちで、高校生が活動する姿も。空き家や倉庫も、まちの大切な資源です。身近な建物を生かす取り組みが、世代を越えて、まちに関わるきっかけになっています。



梅光学院大学3年　岩城 純恋さん

「しものせき茶山塾」参加者

将来は民泊で働きたいと考えているので、勉強のために参加しました。建築にもまちづくりにも関わったことがなかったので不安でしたが、茶山の皆さんが温かくて、初心者の私にぴったりでした。新しいつながりも得られて、今後の活動がもっと楽しみになりました。



ビューティサン 永谷 恵美子さん

「うみまちフェス」出店者

豊北町で育ち、地元の方に支えられながら、特牛で33年間美容室を営んできました。昨年のうみまちフェスに参加し、「今年は私も！」とメイク体験を企画しました。一度まちを出た若い人が、いつか安心して帰って来られる、ここで暮らしたいと思えるように特牛を守っていきたいです。

下関で広がる、リノベの輪





実家の呉服屋でワインを販売！海外で得たワインの知識を生かして、みんなが集まれる場所をつくります。





吉母呉服店
吉母 力也さん

築120年の民家を安く譲り受け、改装中です！宿と飲食、自然が一度に楽しめる拠点作りに取り組んでいます。

地域おこし協力隊
山口 弘将さん

シェアキッチン「豊浦ぐるぐるキッチン」の改装・運営や、空き家対策にも取り組み中。SNSで地域の魅力も発信しています。

豊浦ぐるぐるキッチン
木滑 知宏さん

2026年11月からリノベーションまちづくり版地域おこし協力隊として着任しました。地域コミュニティの再生・活性化に取り組んでいきます！





地域おこし協力隊
太田 昭弘さん

東京から菊川町へ移住し、飲食店兼子どもの居場所を運営。ないなら自分たちでつくるが合言葉です。

きくがわ食堂かむかむ
佐々木さんご夫婦

さあ、次はあなたも。



1 第5回しものせき茶山塾ワークショップ

日12月上～中旬予定
所茶山通り
まちの空き家を自分の手で生まれ変わらせる実践型のワークショップです。詳しくはQRコードで、ご確認ください。

5 リノベーションまちづくり講演会 in 豊田

日1月28日(木)午後6時
所西市公民館　申QRコードで。
豊田のまちのこれからを一緒に考える特別講演会。あなたの一歩がまちを変えるきっかけになるかもしれません。